

日本ふうと記(食と風土の日本探訪)その四十四

直江兼続とコシヒカリ(新潟県)

越後国は七世紀末、越国(こしのくに)が分割されて成立しました。地域の譲り受けや分離などで領域は変化しましたが、後々まで続く越後国は、佐渡島を除く現在の新潟県とほぼ重なります。越後国主として最も有名なのは、「越後の虎」と恐れられた上杉謙信です。幾度となく出兵はしたものの、戦国時代にあつて、領土拡大のための戦いはせず、生涯「義」を重んじた武将といわれます。



兼続が少年期に学んだ禅寺・雲洞庵(南魚沼市)の山門

直江兼続は、越後上田庄(新潟県南魚沼市)の生まれです。謙信の養子・景勝に仕え、謙信の死後国主となった景勝とともに、執政として義を重んずる治世を行いました。上杉家は、豊臣政権下では移封で会津百二十

万という屈指の地位を確立したものの、徳川家康に敵対したため、関ヶ原の戦い後、米沢(山形県)三十万石に減封されてしまいました。家康にあてた兼続の「直江状」が有名ですが、このあたりは昨年大河ドラマでご存知の方も多いでしょう。

徳川時代初期の米沢藩は、兼続の殖産興業などの努力で実質五十五万石までになりました。しかし、昔の家臣団をリストラせず抱えていたため、後には藩財政が悪化していききました。藩政改革に取り組み成功させたのが十代藩主・上杉鷹山でした。農民には荒地開墾による米作奨励

新産業として「米沢織」を興すなど、倭約・荒地開墾・産業興隆を徹底し、その結果、莫大な借金を返済、余剰金のある財政状態となりました。また、常に飢饉など有事に備えたため、天明の大飢饉では、一人の餓死者も出さなかったといわれます。

長々と上杉家のことを書いたのは、新潟県の米についてふれたかったからです。同県は現在、コシヒカリを中心とした米の収穫量が北海道について全国第二位。兼続の生まれ故郷である魚

沼地方で栽培される「魚沼産コシヒカリ」は食味日本一の評価を受ける米のトップブランドであり、新潟県は日本一の米どころといっています。

ちなみに、コシヒカリという米の品種は一つですが、商品銘柄としてのコシヒカリは多数あります。例えば現在、新潟県産コシヒカリという銘柄の大部分はコシヒカリBという品種群であり、コシヒカリという品種ではありません。

コシヒカリは、昭和から平成にかけて、日本各地で栽培されるようになりました。また、コシヒカリと掛け合わせた新たな品種の育成が各地で多数試みられました。代表的な品種は、あきたこまち、ひとめぼれ、森のくまさん。

なお、新潟県は米に関連して、煎餅、あらねなど米菓の生産額日本一です。「柿の種」発祥の地は同県の長岡市。



魚沼産「コシヒカリ」

高性能浄水器 レンタル継続中!!

安全でおいしい水を
●たっぷり使えて月々たったの
1,575円(税込)

月々1,575円で美味しく安全なお水を飲みませんか?
容量が大きいのでふんだんに調理水につかえます。
トリハロメタン(発がん性)も強力に除去します。



薬好きは要注意 常用は考えもの



家庭の医学

一口メモ

日本人には、薬好きが多いように思えます。薬を服用していれば安心できるという精神的なものかもしれません。しかし、激痛や異常な高熱といった場合に一時的に服用するのは別にして、常用は考えものです。薬には必ず副作用がありますし、頼ってばかりでは、人間の身体が持つ自然治癒力が衰える心配があります。死ぬまで薬を飲み続けるというのは、どう考えても異常ではないでしょうか。

2つの病気で2つの病院に通っている人が、それぞれの病院でもらった薬を安易に服用することは避けるべきです。「別の病院でもらった、こういう薬を飲んでいいのですが」と必ず医師に相談しなければなりません。薬は、基本的には異物、という考え方が健全なのです。

★水菜ともやしのごまからし和え★

〈材料〉水菜、もやし、ごま

- ①水菜を3cmほどに切り、もやしは芽を取り沸騰した湯で2~3分ゆでる。
- ②すり鉢でごまをすり、だし醤油からしで水菜、もやしと一っしょに和える。
- ③小鉢に盛ってできあがり。



お漬物がわりになります。

「わが家の自慢料理」にふるってご応募くださるよう、お願いします。採用された方には図書券をプレゼントします。

〈滋賀県栗東市 藤原幸子様〉